

台湾「地域TA」によるTA制度の実践研究

杜念慈

(台湾 開南大学教学資源センター)

1. はじめに

開南大学では、2007年度より全学的にTA制度を導入してきた。その実施過程において浮上した課題をもとに、2008年度より、開南大学教学資源センター(CTL)は台湾の桃竹苗区(19大学の連合団体)において「地域TA事業」を開始し、「地域TA」の運営体制を整えつつある。本発表では、「地域TA制度」の概略について紹介するとともに、筆者が現在台湾で実施している「地域TA」の現状をふまえて「地域TA」の成果と課題について分析した上で、基礎教育における教育資源の再分配と補習(remedial)授業における学生の学習支援という点の有効性を含め報告する。

2. 開南大学における「地域TA」の概要と発展の背景

本学のTAには、一般性TA(授業補助型)・任務性TA(中間テストから期末テストまでの期間、到達度の低い学生を支援する授業補講型)・常態性TA(学習サポートのグループ指導型)の三種類がある。しかし、現状として先述のとおり三種類のTAが揃ってはいても、学部学生の学習ニーズは十分には満たされていなかった。特に、大学院研究科を設置していない学部の学生へのケアがあまりできていなかった。また、本学では学部学生の学習意欲の低下が問題となっており、本来ならば教員の質の向上を重視すべきだという声があがるどころだが、本学でのそれまでの取り組みから、この問題が完全に教員の質の向上だけのレベルではないことも認識されていた。

本学ではTA制度導入当初、大学院研究科を設置しない学部でTAを採用することができず、これが大きな課題として認識されていた。他方、教員側は大学院生の資質不足を指摘し、TAの仕事を院生に任せることができないという苦情も出ていた。つまり、TA制度導入後に認識された課題は、1) TAの学力、2) TAの人員確保、3) 教員とTAのやり取り、の3点であった。

一方、台湾の教育部(文部科学省に相当)は、2006年度より「教育部補助地域教学資源センタープロジェクト」を発足させ、全国を六つの地域に分け、各地域内における大学間の連携促進を開始した。各地域には「中心大学」が任命され、プロジェクトの運営と助成金の分配管理などを行う。このプロジェクトにおいて、本学は2008年度「地域TA事業」を提案した。

「地域TA」とは、大学院生が同じ地域内にある他大学にTAとして出向き、学部補習授業や演習を行う事業である。本学が「地域TA制度」を提案・導入した主な理由は、1) 学部学生の学習支援、2) 大学院生の資質向上、3) 学部学生と他校の大学院生の交流促進、の3点であった。つまり、地域内の大学が連携して「地域TA制度」を創設し、TAをはじめとする教育資源の再分配を図ろうという試みである。この提案の背景には、高等教育の教育資源が限られており、またその分配にも偏りがみられるという現状がある。

「地域TA」の職務は、各校の大学院生に配布される「地域TAの手引き」に以下のとおり規定されている。

1) 補習授業の実施、学生の宿題のトレーニング・回答、2) 授業(講義)内容の復習、3) 補習授業に関する教材の作成、4) 補習授業日誌(毎回)の記録、5) 毎回出席を取り、その日のうちにネッ

トでセンターに報告する、6) 学期末に学生の出席状況をまとめ、出席表をセンターに提出する、7) 「地域TA」に関するトレーニングイベント・講習会に参加する義務、8) 学期末に補習授業の報告書及び成果資料を提出する、9) 毎月25日に「地域TA」勤務記録表をセンターに提出する。

「地域TAの手引き」に掲載されている情報は、CTLのオフィス及びウェブサイト上で提供されており、自由に閲覧することができる。また、各科目の使用テキスト、参考テキストなどの書籍もCTLにて提供されており、貸出ができる。

「地域TA」の採用過程について説明すると、書類選考に残った採用候補者は本学に招かれ「地域TA」のオリエンテーションと講習会を受け、これを終わると正式に採用される。「地域TA」派遣は、各大学の空き教室、学生の授業時間外の時間等を考慮して決定される。また、「地域TA」本人の勉学と研究の時間を確保する配慮もしなければならない。CTLはその全ての調整作業を行う。

3. 「地域TA」の成果と課題

本学で試みられている「地域TA」には以下の特徴があげられる。

1) 「地域TA」という教育資源を地域圏内で共有することで、個別大学では確保できない人材の調達を可能にしていること。また、2) 授業内容に関する個別指導や補習授業を「地域TA」が担当することで、「地域TA」自身が教育活動にかなり関わっていること。本学の場合、「地域TA制度」の趣旨としては、学部教育の教育改善に重点がおかれた制度設計がなされている。

本学の学部講義科目に対して、地域内の他校の大学院生が「地域TA」として派遣されて実施する補習授業は、「地域TA事業」の重要な役目となっている。「地域TA」は、無料の専用スクールバスに乗って地域の他校に出向き、補習授業を実施する。これは先例のない地域連携例となっている。また、もう一つの成果としては、「地域TA事業」による連携により、教育部より要求されている地域の教育資源の有効活用が実現されたことがあげられる。毎日地域に運行している無料の専用スクールバスにより、「地域TA」をはじめ、各図書館の書籍、学園祭・サークルなどのイベントや活動、様々な教育資源が地域内をめぐることになる。地域内の各大学では、学習支援をはじめ、教育資源の有効活用を促進する多様な交流が可能となっている。

「地域TA制度」のもとで校外の院生が本学に来て補習授業を行うことで、本学の院生にとってはよい刺激となり、学生にとっては多様な補習授業を選択できるようになった。学生の学習ニーズを満たす学習環境が確保することができることに加え、本学の学部学生と他校の院生との交流の場も生まれ、講義科目をはじめ、進学や就職など進路についての意見交換も可能となる。

発表者は本学の代表として、2008年12月から2年間にわたって実施されている台湾桃竹苗区の19大学を対象とする地域教育資源プロジェクトに参加し、「地域TA事業」の計画立案・推進を担当している。このプロジェクトにおいて、本学をはじめ地域内の7大学が連携し、台湾初の試みとして「地域TA制度」を創設した。2009年6月までに既に一学期の「地域TA事業」を実施した。現時点では、二学期の「地域TA」も地域内の8大学を回って補習授業を行っている。

だが、桃竹苗区の「地域TA事業」は桃園（台北近郊）以外の地域にはなかなか普及しない。その主な理由として、特に「地域TA」の採用・配置などの業務を担う運営体制の確保が困難であるという点が考えられる。

また、「地域TA」の具体的な課題としては、1) 強制力がない（単位が出ない）補習授業への学生の参与の意識が低い傾向があること、2) 地域内の他校との連携強化を一層図る必要があること、3) 学生の学習支援活動の多様性に対応すること、の3点があげられる。